

核融合戦略有識者会議第 4 回提出資料

2023 年 1 月 30 日
マトリクス K 近藤寛子

- 核融合戦略骨子案に対する意見

1. 核融合戦略文書のプレゼンスについて

サブタイトルはいかなる戦略であるのかを示すもの。表現はさておいても、何を伝えようとする戦略文書であるのかを明確化する点から、検討してはどうか。

その際には、「核融合発電の実現に向けた新たな方策検討」という会議体の趣旨に照らす、また、本会議は新設の会議体であるため、文科省の「核融合科学技術委員会」等、核融合に関わる他の会議体と混同されないよう、検討スコープ等の違いを明確にする必要があると思われる。

サブタイトルと併せて、戦略の効果的な打ち出し方についても検討してはどうか。核融合戦略に対するコミットメントを示すには、主要関係者によるシンポジウム開催が有効だと思われる。参考資料“ホワイトハウスサミット”商業核融合エネルギーの実現を加速するための 10 年戦略 アジェンダ”

2. フェーズと時間軸の考え方について ～核融合技術視点と核融合産業視点～

核融合技術の研究開発のフェージングは、主に概念設計、工学設計、製造設計・建設という考えが採用されている。

一方で、「戦略の意義」(P1) に掲載されている核融合産業を論じるにあたっては、産業ライフサイクル(幼年期、成長期、成熟期、衰退期)の観点からも考える必要がある。核融合は研究開発段階でありながら、他国における産業への参入活発化をみるに、競合状況は一般産業の幼年期終盤～成長期に等しく、他方で国内の参入状況は限られており幼年期である。日本企業が出遅れないために、国内外市場のギャップをチェックしながら、育成機会を作っていく必要がある。

3. 不確実性へ対応できる戦略の機動的修正

核融合技術の研究開発、産業化にあたっては、とりまく社会情勢の変化や、技術の成立性、国際競争/協調状況など、多様な不確実性がある。不確実性への対処し、戦略に軌道修正を加えながら、マネジメントしていくことを踏まえ、戦略策定および執行にあたって考慮すべき不確実性と対応について「ビジョン達成に向けた戦略の基本的な考え方」に明文化してはどうか。